

山島地区白山市ミライ会議

1. 会議概要

項目	内容
開催日時	令和8年5月31日(日)10:00～
開催場所	山島コミュニティセンター
参加者	9名(市長、山島地区コミュニティ協議会、民生児童委員、松南小学校スクールコーディネーター、松南小学校PTA、山島地区町内会長会)
選択トピック	高齢者と子どもを地域で見守るまちづくり 1. 高齢者の移動・生活支援(医療機関へのアクセス、買い物支援) 2. 子どもの見守り活動(登下校時の安心さん活動の担い手不足) 3. 高齢者の社会参加促進(老人会の参加減少、サロン活動の周知)



2. 主な議題と意見

(1) 高齢者の移動・生活支援



① 現状

- ・ 山島地区は、医療機関や商業施設がない状況
- ・ 現在、健康で生き生きと生活している高齢者はマイカーを利用して医療機関や買い物に出かけている
- ・ 地域住民から「自立ができなくなる将来への不安」と「地域での支援を求める要望」が寄せられている

② 課題

- ・ 高齢化に伴い、自動車運転ができなくなった際の移動手段がなく、不足している
- ・ 交通機関の「めぐーる」が1日2往復プラス帰りの便で運行されているが、利用しやすい時間帯ではなく、利用が進んでいない
- ・ 山島地区に医療機関や商業施設がなく、遠距離への移動が必要

③ 市の主な方向性・回答・対応

- ・ 山ろくには出張診療所(吉野谷、白峰)があり、出張診療を実施している
 - ・ めぐーる利用者の希望する時間やコースが行き届かない点は認識しているが、広い市域や運転手の確保などあらゆる問題解決には相応の時間が必要
 - ・ ライドシェアの導入はさまざまな課題があり、十分検討する必要がある
-

(2) 子どもの見守り活動(安心さん活動の担い手不足)



① 現状

- 松南小学校 PTA 単位で「安心さん」活動(登下校時の見守り)を実施
- 安心さんは高齢者が中心で、若い担い手がいないう状況
- 「毎日出るのは自身の負担」という理由で辞める方が多い
- 登下校時の見守り体制について、見守り箇所数に対して、人が足りていない

② 課題

- 高齢化により安心さんが減少し、若い世代の参加がなく担い手が不足しており、子どもたちの見守りを一部の人が支えるのではなく、地域コミュニティも参加していただき、見守ってほしい
- 「毎日」という責任感の重さが新規参加の障壁になっている(登録すると責任感が重くなるため、登録せずに自主的に見守りをしている人もいる)
- 朝の旗当番に共働き家庭が対応できない
- 下校時の見守り体制について保護者が見守ることは時間帯として難しく、安心さんのご協力が欠かせない

③ 市の主な方向性・回答・対応

- 高齢化による担い手不足など、現状の課題について把握した
-

(3)高齢者の社会参加促進(老人会の参加減少、サロン活動の周知)



① 現状

- ・ 老人会への加入が進まず会員数が減少している状況であり、65 歳から加入可能だが、60 代から 70 歳代で働いている人が多い
- ・ 役員の高齢化が進み、後継者がおらず、同じ人が 10 年以上役員を務めている例もある
- ・ 集まって事業をすることに抵抗感がある人も多い
- ・ サロン活動が社協から提供されているが広がっていない
- ・ 認知症予防のための活動が十分に周知されていない

② 課題

- ・ 定年年齢の延長により、65 歳以上でも働く人が多く、老人会への加入が進まない
- ・ 既存役員の高齢化と新規参加者の不足により、役員の後継者が不足している
- ・ サロン活動の認知度が不足しており、チラシが配布されているが、十分に周知されていない
- ・ コミュニティ参加意識の低下がみられ、個人の趣味やジム通いなど、個々の活動を選択する傾向

③ 市の主な方向性・回答・対応

- ・ サロンなどの活動は、認知症予防にもつながるため推奨していく
- ・ コミュニティセンターの事務手続きなど簡素化を進めている

3. まとめ

山島地区は、防災体験会の実施や課題解決を目的としたワークショップで提案された世代間交流の場を積極的に開催するなど、組織と町内会長会が一体となり活動を行い、また、長年「山島地区の明日を考える会」の開催を続けており、古くからコミュニティ強化に取り組んでいる地区です。

今回のミライ会議では、「高齢化に伴う移動手段の不足」「見守り活動の担い手不足」「社会参加機会の減少」という3つの課題について話し合いました。

市としては、めぐーの利便性向上やライドシェアなど、交通手段の充実を図るため、慎重に検討を進めていきます。高齢者の活動促進に伴う認知症予防効果や老人会・サロンで活動するメリットについても改めて重要性を周知していくことを確認しました。

